



戦争をさせない  
1000人委員会  
Anti-War Committee of 1000

# 信州ニュース

戦争をさせない1000人委員会・信州 2014年12月4日 第16号

〒380-0838 長野市県町 532-3 県労働会館

電話 026 (234) 2116 FAX 026 (234) 0641 E-mail vi4h-kt@asahi-net.or.jp

HP <http://sensouwasasenaishinshu.jimdo.com/>

 [https://twitter.com/1000\\_shinshu](https://twitter.com/1000_shinshu)

 <https://www.facebook.com/sensouwasasenaishinshu>

## 戦争をさせない1000人委員会（全国）が総選挙への声明を発表

### 平和な未来をつくりたいと願う人々は総結集し、 この総選挙で、安倍自公政権の「戦争する国」への暴走を止めよう

11月21日、安倍首相は衆議院を解散し、12月2日公示、14日投票の総選挙へと走り出しました。記者会見で、「消費税の引き上げを18ヶ月延期すべきであること」、「私たちが進めてきた経済政策、成長戦略をさらに前に進めるべきかどうか」について、「国民の皆様の判断を」仰ぎたいと述べています。

しかし朝日新聞の世論調査では「この時期に解散・総選挙すること」に賛成18%、反対62%となっています。安倍自公政権への支持率も、初めて支持・不支持の割合が逆転し、支持39%、不支持40%となりました。また共同通信の調査でも「解散の表明を理解できない」が63%となっています。世論の多数派は、「今のうち解散」も、安倍自公政権自体も支持していません。

安倍自公政権は、この2年間「戦後レジームからの脱却」を掲げて、戦争する国へ、貧困・格差社会へ、原発推進社会へ、憲法改悪へと社会の枠組みを変えようと暴走してきました。

戦争をさせない1000人委員会は、平和な未来をつくりたいと願う人々とともに、全国各地での「1000人委員会」づくりや署名運動、また「9.4総がかり行動」、「11.11国会包囲行動」など多くのとりくみを重ねてきました。1000人委員会の運動やその他の平和、憲法擁護の運動、脱原発運動など全国に大きく拡大し、安倍政権は大きく揺れだしています。

今回の解散・総選挙の安倍首相の本当の狙いは、「特定秘密保護法」・「集団的自衛権」行使の閣議決定・原発再稼働への世論の反発、沖縄県知事選挙での自民党候補の大敗、アベノミクスなど経済政策の失敗、大臣たちの不祥事の続出、外交政策の失敗などによる政権の行きづまりを隠し、自らの延命と政権基盤の強化を狙った党

利党略によるものであり、許されません。しかし今回の解散総選挙は、私たちにとっても、「戦争する国」へ暴走する安倍自公政権にストップをかけるための、千載一遇のチャンスでもあります。

今回の総選挙で自公の与党が過半数を獲得すれば、彼らは「個別政策においても国民に支持された」と勝手に捻じ曲げ、次は、「憲法違反の閣議決定」に基づく日米防衛ガイドラインの改定、戦争関連法案の国会提出へ進めてきます。沖縄でも名護市長選、知事選挙での結果を無視し、「外交防衛は政府の権限」と言いつのりながら、弾圧と懐柔により、辺野古への新基地建設を進めてきます。福島の実情にふたをして、安全性を無視して、原発再稼働も積極的に進めてきます。

大多数の市民は、「集団的自衛権」行使の容認、沖縄への基地建設、原発再稼働を支持していません。民意を踏みにじるこうした事態は絶対に許せません。まさに立憲主義・平和主義・憲法の破壊、原発ゼロ政策の破壊であり、平和な未来の破壊です。こんな未来を次の世代に引き継いではなりません。何としても安倍の暴走にストップをかける選挙結果を出さなければなりません。

戦争させない1000人委員会は、私たちの主張を理解し奮闘する野党勢力の勝利を願うとともに、すべての皆さんに、そうした候補の勝利をめざして、全国各地で、全力でとりくむことを呼びかけます。

この選挙で、平和・民主主義・脱原発を掲げる勢力の前進を勝ち取り、次の闘いへの大きな展望を切り拓きましょう。

詩「平和の申し子たちへ！泣きながら抵抗を始めよう」

なかにし礼 (作詞家)

2014年7月1日火曜日  
 集団的自衛権が閣議決定された  
 この日 日本の誇るべき  
 たった一つの宝物  
 平和憲法は粉碎された  
 つまり君たち若者もまた  
 圧殺されたのである  
 こんな憲法違反にたいして  
 最高裁はなんの文句も言わない  
 かくして君たちの日本は  
 その長い歴史の中の  
 どんな時代よりも禍々(まがまが)しい  
 暗黒時代へともどっていく  
 そしてまたあの  
 醜悪と愚劣 残酷と恐怖の  
 戦争が始まるだろう  
 ああ、若き友たちよ！  
 巨大な歯車がひとたびぐらっと  
 回りはじめたら最後  
 君もその中に巻き込まれる  
 いやがおうでも巻き込まれる  
 しかし君に戦う理由などあるのか  
 国のため？ 大義のため？  
 そんなもののために  
 君は銃で人を狙えるのか  
 君は銃剣で人を刺せるのか  
 君は人々の上に爆弾を落とせるのか  
 若き友たちよ！  
 君は戦場に行つてはならない  
 なぜなら君は戦争にむいてないからだ  
 世界史上類例のない  
 69年間も平和がつづいた  
 理想の国に生まれたんだもの  
 平和しか知らないんだ  
 平和の申し子なんだ  
 平和こそが君の故郷であり  
 生活であり存在理由なんだ  
 平和ぼけ？ なんとでも言わしておけ  
 戦争なんか真っ平ごめんだ  
 人殺しどころか喧嘩もしたくない  
 たとえ国家といえども  
 俺の人生にかまわななくてくれ  
 俺は臆病なんだ  
 俺は弱虫なんだ  
 卑怯者？ そうかもしれない  
 しかし俺は平和が好きなんだ  
 それのどこが悪い？  
 弱くあることも

勇気のいることなんだけ  
 そう言って胸をはれば  
 なにか清々しい風が吹くじゃないか  
 怖れるものはなにもない  
 愛する平和の申し子たちよ  
 この世に生まれ出た時  
 君は命の歓喜の産声をあげた  
 君の命よりも大切なものはない  
 生き抜かなければならない  
 死んではならない  
 が 殺してもいけない  
 だから今こそ！  
 もっともか弱きものとして  
 産声をあげる赤児のように  
 泣きながら抵抗を始めよう  
 泣きながら抵抗をしつづけるのだ  
 泣くことを一生やめてはならない  
 平和のために！

なかにし・れい 上記の詩は2014年7月10日、毎日新聞夕刊に掲載。1938年中国・牡丹江市生まれ。「石狩挽歌」「北酒場」など数々のヒット曲を作詞。小説では98年「兄弟」、99年「長崎ぶらぶら節」(直木賞)、01年「赤い月」など。

金井奈津子さん(1000人委員会・信州呼びかけ人)が「平和・協同ジャーナリスト基金賞」荒井なみ子賞を受賞

平和・協同ジャーナリスト基金賞「荒井なみ子賞」

フリーライター 松本の金井さん受賞

松本市のフリーライター金井奈津子さん(56)が、中信地方の情報紙「松本タウン情報」に連載した「憲法をお茶の間に中馬道博さんに聞く」が3日、第20回平和・協同ジャーナリスト基金賞の「荒井なみ子賞」に選ばれた。信濃毎日新聞社前主筆で論説顧問の中馬さん(11月1日死去)に疑問をぶつけ、語ってもらった形5年にわたり連載した作品。「地域の話題が中心のタウン紙に新たな可能性を切り開いた」と評価された。松本タウン情報は週3回発行で、信毎と一緒に無料で配られている。受賞作は、改憲の手続きを定めた国民投票法が2007年に成立したことに危機感を抱いた金井さん

故中馬前主筆に取材「報告したかった」

が企画・提案した。「母親として子どもを戦場に行かせたくない」と願う金井さんに共感した中馬さんが快諾し、08年11月から14年3月まで計108回の長期連載となった。同基金賞は、反核・平和、人権擁護などを推進する報道に寄与したジャーナリストらに贈られる。基金の発展に尽力した荒井なみ子さん(故人)に都内で贈呈式がある。

金井さんは受賞について「どんなに個人的質問に、誠意を持って答え続けてきた中馬さんのおかげ。亡くなる前に報告したかった」と、涙ながらに話した。13日に都内で贈呈式がある。

「中馬さんが教えてくれた平和の尊さのために」後、も力を尽くしたい」と語る金井さん(13日、松本市)



憲法テーマ「松本タウン情報」に連載